

## 第九回・医展・血液型調査報告

昭和38年9月19日 受付

(指導：信州大学医学部法医学教室 主任：野田金次郎)

"犯罪と事故" グループ\*

The Observation of the ABO, MN and Rh<sub>0</sub> Blood Groups on the Visitors of the IX Medical Exhibition in Shinshu University

Group of "Crimes and Accidents"

Department of Legal Medicine, Faculty of Medicine,

Shinshu University

(Director: Prof. Dr. K. Noda)

## まえがき

近時、血液型の集団検査の話題が処々で聞かれています。一部では既に実施されつゝある。それは、Rh(-)の人の手術の場合や分娩の際にRh(-)型血液が是非必要である事が、段々実例によつて示されつゝある一方、保存血の不足の話と相まつての事であると思われる。長野県でも、既に本年度約40,000人の県民の集団検査が終了した。

今回、信州大学医学部学生の主催による第IX回医学展が昭和38年5月31日、6月1、2日にわたつて開かれたが、その際有料(実費)で希望者の血液型判定を行つた。既に本誌に前回の集計結果を掲載したが、前回分に引き続き、今回分を茲に集計報告する。

## 実験結果並説明

今回は、ABO式並MN式の外に、Rh<sub>0</sub>式をも併せ行つたが、夫々は希望者の意志によつてABO式並MN式とRh<sub>0</sub>式とを分離して判定したが、ABO式並MN式の総計294名に対し、Rh<sub>0</sub>式227名(77.2%)の希望があつた。これは或意味では、一般人の血液型に対する関心が高まつた結果ともみられよう。

## I ABO式並MN式血液型の集計

ABO式血液型は第1表に、MN式血液型は第2表に夫々集計結果を示しておいた。

又、日本人についての先人の集計的報告、並に神田(啓道)(1960)による長野県下部落調査の結果と比較

して見ても、特異な分布をなしてはいない。

MN式血液型の集計結果も何等特異的の所見を認めえなかつた。

第1表 ABO式血液型頻度

血液型	実数 (%)
A	116 (39.5)
B	55 (18.7)
O	89 (30.3)
AB	34 (11.5)
計	294 (100.0)

第2表 MN式血液型頻度

血液型	実数 (%)
M	91 (30.9)
N	62 (21.1)
MN	141 (48.0)
計	294 (100.0)

II Rh<sub>0</sub>式血液型の集計

このI項検査を希望した294名の内227名がRh<sub>0</sub>式の判定をも希望したが、その判定の結果は第3表の如くであり、Rh<sub>0</sub>(-)型2.2%の高率を示した。これは勿論例数が少なかつた事によるものである。(一般には本邦人で0.8~0.5%位である。)

\* 四年生 内田陽教・山下和意・和田浩一  
 三年生 中島国昭・渡辺惣兵衛・月岡寿一郎  
 二年生 高津光洋・岩間卓治  
 一年生 仲沢立治・小沢利明・後藤 宏・吉江治彦  
 医 進 新海 毅・中野達也・石原秀文

第3表 Rh<sub>0</sub>式血液型頻度

血液型	実数 (%)
Rh <sub>0</sub> { (+)	222 (97.8)
Rh <sub>0</sub> { (-)	5 (2.2)
計	227 (100.0)

尚、この希望者の内 Rh<sub>0</sub> (-) 型の人には、書面で種々の指導を行つているが、本人が不明との理由で返送されて来たものもあり、その人々については輸血・妊娠等の際の指導がゆき届かず、判定結果が無益に終つてしまつた事は非常に残念であつた。

## むすび

第Ⅺ回医学展の際、希望者について ABO 式並 MN 式と同時に Rh<sub>0</sub> 式血液型の検査を行つたので、その結果の集計を報告した。

## 主要参考文献

- ①野田金次郎：血液型学実験法，金原出版，1957.
- ②小林ちよ：犯罪学雑誌，14 (5)，727，1940.
- ③小林ちよ：犯罪学雑誌，13 (5)，399，1939.
- ④神田啓道：信州医学雑誌，9 (5)，676，1960.
- ⑤「犯罪と事故」グループ：信州医学雑誌，9 (6)，893，1960.